

検討の観点と内容の特色

検討の観点

検討の観点から見た内容の特色

1. 教育基本法との関連

- 教育基本法に示された教育の目標を達成するための配慮がなされているか。
- 1.幅広い知識と教養、真理を求める態度
 - 教育基本法第1章第2条の各項に照らし、教育の目標に示された内容を幅広く取り扱うことができるよう、教材の選定や学習活動の設定に意を用いるとともに、児童の関心や発達の段階に応じて適切に組織・配列している。
 - 国語科の学習を通じて、自然や社会についての幅広い知識や教養、知的な関心を養うよう、**多様な分野から教材や題材を選定**し、児童の関心や発達の段階を踏まえて提示している。
 - 本に親しみ、読書を通じて知識や教養を豊かにし真理を求める態度を養うよう、**さまざまな分野から厳選した図書を多数紹介**している。▶「こんな本もいっしょに」(1下81, 3下21, 5年255ほか)、「○年生の本だな」(2上102, 4上102, 6年88ほか) など
 - 2.豊かな情操と道徳心
 - 他者との心の交流や思いやり、人間の生き方などに触れた優れた文学的文章を通じ、豊かな情操と道徳心を培うようにしている。▶「かいがら」(1上114)、「お手紙」(2下48)、「ゆうすげ村の小さな旅館—ウサギのダイコン」(3下110)、「走れ」(4上58)、「だいじょうぶ だいじょうぶ」(5年16)、「風切るつばさ」(6年59) など
 - 3.個人の価値の尊重、能力、創造性、自主及び自律の精神
 - 課題解決的な学習の中で、自らの学習課題を明確にして学習に取り組み、学んだことを振り返って価値づける過程を繰り返すことにより、**主体的な学習態度や能力**が養われるようにしている。
 - 個々の興味や関心、ものの見方・考え方や価値観を交流する学習を通じて、**多様な個性を認め合い尊重する態度**を養うようにしている。▶「すぎなきょうかはなあに」(1下56)、「たからものをしょうかいしよう」(2下34)、「本をみんなにすすめよう」(4下66)、「友達の意見を聞いて考えよう」(6年48) など
 - 感性豊かに表現することを通じて、豊かな創造性を培うようにしている。▶「ことばあそびうたをつくろう」(1上122)、「なにに見えるかな」(1下30)、「心が動いたことを詩で表そう」(3下78)、「山場のある物語を書こう」(4上142)、「心が動いたことを三十一音で表そう」(5年204)、「心が動いたことを十七音で表そう」(6年206) など
 - 4.職業及び生活との関連、勤労を重んずる態度
 - さまざまな仕事や働く人**に関わる学習、**自らの職を極めようとする人の姿**を描いた文章の読解を通じて、豊かな職業観や勤労を重んずる態度を養うようにしている。▶「メモを取りながら話を聞こう」(3上50)、「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」(5年142)、「海のいのち」(6年112)、「プロフェッショナルたち」(6年210) など
 - 5.自他の敬愛と協力
 - 自尊感情や自他の相互理解と敬愛、協調や協力の大切さ**に関わる文学的文章を通じて、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしている。▶「スイミー」(1下119)、「名前を見てちょうだい」(2上55)、「サーカスのライオン」(3上126)、「こわれた千の楽器」(4上16)、「手塚治虫」(5年238)、「サボテンの花/生きる」(6年16) など
 - 他者と協働したり関係を結んだりする学習活動や、考えの交流・共有により**相互理解や合意形成を図る学習活動**を通じてその楽しさや大切さに気づき、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしている。▶「ひとつつながることば」(1上12)、「うれしくなることばをあつめよう」(2上116)、「自分の考えをつたえよう」(3下60)、「問題を解決するために話し合おう」(5年104)、「友達の意見を聞いて考えよう」(6年48) など

<p>6.公共の精神、社会の発展に寄与する態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活におけるさまざまな課題について主体的に考えたり他者と協働して解決に取り組んだりする学習活動、社会の現状や在り方について考察したり考えを述べたりする学習活動を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うようにしている。▶「グループの合い言葉をきめよう」(3上116),『『弱いロボット』だからできること』(5年214),「インターネットの投稿を読み比べよう」(6年74) など 図書館等の公共の施設を利用する学習活動を通じて、それらを大切に、決まりやマナーを守って利用する態度を養うようにしている。▶「としょかんはどこ」(1上104),「図書館へ行こう」(2上28, 3上30, 4上28, 5年28, 6年30) など
<p>7.生命の尊重、環境の保全に寄与する態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然や生命への感動や畏敬を表現したり、自然と人間との関係について述べたりした文章の読解、自然との触れ合いの中で気づいたことや環境問題について考えたことを表現する学習活動を通じて、生命を尊び、自然を大切にすることを養うようにしている。▶「子どもをまもろうぶつたち」(1下101),「かんさつしたことを書こう」(2上72),「環境問題について報告しよう」(5年50),「イースター島にはなぜ森林がないのか」(6年34) など
<p>8.伝統や文化の尊重、我が国と郷土を愛する態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言語に関わる文化をはじめとした我が国や郷土のさまざまな伝統・文化に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしている。▶「むかしばなしをたのしもう」(1下88),「おばあちゃんに聞いたよ」(2下100),「慣用句を使おう」(3上86),『『ふるさとの食』を伝えよう』(4下54),「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」(5年142),「いにしへの言葉に学ぶ」(6年196) など
<p>9.他国の尊重、国際社会の平和と発展に寄与する態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他国の文化に関する教材・題材を取り上げ、他国への理解を深め、他国やその文化を尊重する態度を養うようにしている。▶「外国の小学校について聞こう」(2上50),「人をつつむ形ー世界のめぐり」(3下88),「外国のことをしょうかいしよう」(3下102),「くらしの中の和と洋」(4下8),「日本語と外国語」(5年232) など 国際協力や国際交流、国際社会の諸問題に関わる教材・題材を取り上げ、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしている。▶「パラリンピックが目指すもの」(3下8),「資料を見て考えたことを話そう」(5年226),「世界に向けて意見文を書こう」(6年158) など 戦争や紛争を背景とした物語を読むことを通じて、平和を希求し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしている。▶「一つの花」(4上124),「世界ー美しいぼくの村」(4下110),「ヒロシマのうた」(6年166),「いわたくんちのおばあちゃん」(6年256) など

2. 教育課程及び学習指導要領への対応

<p>●教育課程編成の方針を踏まえているか。</p>	<p>●「小学校学習指導要領解説総則編」及び「国語編」の各章に示された方針及び趣旨、目標及び内容等に基づき、適切な教育課程の編成が行われるよう、内容及び組織・配列を工夫している。</p>
<p>1.資質・能力の育成</p>	<p>●「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が、バランスよく一体的に育成されるよう、内容・系統及び組織・配列を工夫している。</p>
<p>【内容・系統】</p>	<p>●学習指導要領の目標と内容をもれなく扱うとともに、単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「言葉の力」として明確化し(1下以降)、重点的な学習によって着実に身につくようにしている。</p> <p>●「言葉の力」が系統的・段階的に育成されるよう、6学年を通して系統的に単元を配列している。</p> <p>●2年以上の各巻の巻頭に当該学年の「言葉の力」を見通す「〇年で学習する言葉の力」、巻末付録に前学年の「言葉の力」を振り返る「〇年で学習した言葉の力」、1～4年の下巻の巻末付録には上巻で学習した「言葉の力」を振り返る「〇上で学習した言葉の力」を設け、「言葉の力」の系統やつながりを意識して、学習を見通したり振り返ったりすることができるようにしている。▶4年の例…「四年で学習する言葉の力」(上7, 下6),「三年で学習した言葉の力」(上154, 下150),「四上で学習した言葉の力」(下154)</p>
<p>【組織・配列】</p>	<p>●各領域の単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の課題解決的な3ステップで組織するとともに、2年以上の各学年冒頭に「国語の学習の進め方」のページを設けて、課題解決的な学習を通じて生きた資質・能力が育成されるようにしている。</p>

<p>【知識及び技能】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身につける資質・能力を常に意識できるよう、「つかむ」に何を学ぶかを見通す「言葉の力」,「ふり返る」に何をどのように学んだかを振り返る「言葉の力」を提示している。 「つかむ」に既習事項の想起を促す「覚えているかな」を提示するなど、単元間の学習のつながりを意識し、既有的資質・能力を発揮しながら学べるようにしている。
<p>●語彙指導の改善・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の「知識及び技能」に示された事項については、各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着・習熟できるようにしている。 学習の基盤として習得すべき知識や技能を、「おさえる」として随所に明示している。▶「だん落」(3上45),「声の表情」(4下27),「描写」(5年183),「図表やグラフを使う」(6年55) など 学習の基盤となる知識や技能のうち、仮名や漢字の読み書き、児童がつまずきやすく習得に課題がある事項について、習得を確実にする練習教材を適所に設けている。▶「ひらがなのれんしゅう」(1下42ほか),「かたかなのれんしゅう」(2上54ほか),「漢字の練習」(1下100, 2下43, 3上63, 4上79, 5年77, 6年165ほか),「ローマ字の練習」(4下127),「言葉の練習」(2上34, 3上15, 4上15, 5年15, 6年15ほか) 学年段階に応じたさまざまな観点から言葉を集める教材「ことばあつめ」を設け、文の中で使う学習を通じて、言葉の特徴や使い方についての理解を深めながら語彙を広げるようにしている。また、各巻の巻末に設けた「言葉の広場」では、「ことばあつめ」をきっかけにさらに豊かな語彙を身につけるようにしている。▶「ことばあつめ」(2上140, 3下38, 4上141, 5年212, 6年204ほか),「言葉の広場」(1下152, 2上152, 3下152, 4上152, 5年274, 6年268ほか) 各単元の学習内容に関わる話型や文型、使えるようにしたい言葉を、単元末の「言葉」欄で取り上げ、学習や実生活の中で使える語彙力が育つようにしている。▶1下111, 2上47, 3下29, 4下96, 5年135, 6年45など
<p>●情報の扱い方に関する指導の改善・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の内容「知識及び技能」の「(2)情報の扱い方に関する事項」については、各単元の学習で適切に取り扱っている。必要に応じて、大切なポイントを「おさえる」で提示したり、情報を整理したり関連付けたりする思考操作をメモやノート、思考ツールで可視化したりして、目的や課題に応じて情報を扱う力が身につくようにしている。▶「おさえる」…「理由、事例」(3下99),「くらべてまとめる」(4下18),「原因と結果」(6年43)など/思考操作の可視化…「木村さんがならべかえたカード」(2下109),「田中さんたちが考えたなかま分け」(3上122),「木村さんたちが原因について考えた付せんメモ」(5年108),「図で整理した例」(6年44) など 2年以上の各学年の4月に、書くこと「情報の扱い方」系統の小単元を位置づけ、学年に応じた情報の扱い方の基礎を身につけ、以後の学習に役立てられるようにしている。▶「いくつあつめられるかな」(2上12),「くらべてみよう」(3上12),「グループにまとめて整理しよう」(4上12),「事実と考えを区別しよう」(5年12),「原因と結果に着目しよう」(6年12)
<p>●我が国の言語文化に関する指導の改善・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な言語文化に触れたり、言葉の由来や変化について学んだりする単元・教材を、全学年を通して系統的に取り上げ、我が国の言語文化に親しみ、その担い手として豊かに継承・発展する態度を育成するようにしている。▶「むかしばなしをたのしもう」(1下88),「言いつたえられているお話を知ろう」(2上96),「俳句に親しむ」(3下74),「百人一首の世界」(4下72),「古文に親しむ」(5年136),「和語、漢語、外来語」(5年164),「言葉は変わる」(6年111),「季節の足音」(2下76, 4上108, 6年194ほか) など
<p>●読書指導の改善・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して読書に関わる学習内容を設け、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくむようにしている。▶4年の例…4月「図書館へ行こう」(上28), 7月「本は友達」(上100), 12月「本をみんなにすすめよう」(下66), 3月「世界ー美しいぼくの村」(つながりのある本への読み広げ, 下110), 通年「こんな本もいっしょに」(上45, 下126ほか) など 学習内容や学年の段階に合わせて、多様な図書を紹介し、読書への関心や親しみを深められるようにしている。6学年を通して、500冊以上の図書を紹介している。
<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>●言語活動の創意工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各領域の指導事項をもれなく、かつバランスよく育成できるよう、領域ごとに適切な系統を設け、全学年を通じ系統的に取り扱っている。 1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や意図、条件に沿った課題解決的な学習を通じて、必要な思考力、判断力、表現力等が身につくようにしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程の明確化 ・「考えの形成」の重視 	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元は、「つかむ」「取り組む」「ふり返る」のステップに沿い、育成すべき「言葉の力」を明確にしたシンプルな構造で組織されている。児童が身につけたい資質・能力への自覚を高めながら学習に取り組むことができるようにしている。 ●単元全体の中心的な課題となる「単元の問い」を提示し、解決に取り組む課題を明確にするとともに、「取り組む」段階の各局面に、どのようにすれば課題を解決できるかについての思考・判断を促す発問や「言葉の力の問い」を設け、児童が常に課題意識を持ちながら主体的に考えることができるようにしている。 ●思考を言語化して整理したり深めたりしながら考えを形成する手立てとして、ノートやメモ、カードや図表、対話等の例を随所に提示している。▶「国語のノートの作り方」(1上130, 2上26, 3上28, 4上26, 5年26, 6年28),「石川さんのカード」(2下29),「図や表を使う」(3下66),「文章の構成を整理した例」(5年41), 人物どうしの関係を整理した図 (6年66) など ●国語科の学習を通じた自らの成長を自覚するとともに、学習で身につけたことを他教科等の学習や実生活に活用するよう促すことによって、児童が国語の大切さや国語を学ぶ意義を見だし、国語を尊重しその能力の向上を図る態度が養われるようにしている。 ●児童が成長への意志を持って粘り強く学べるよう、2年以上の各学年の冒頭に年間の学習を見通して自らのめあてを明らかにする場面、適期に学習を振り返ってめあてを新たにする場面を設けている。また、学年末には年間の学習を振り返る場面を設け、児童が自らの成長を実感し、さらなる学習への意欲を高めるようにしている。▶4年の例…「一年間の学習でがんばりたいこと」(上9),「これまでの学習をふり返って」(上109, 下71),「一年間の学習をふり返って」(下132) ●各単元の「つかむ」では、身につけたい「言葉の力」を明示し、既習事項や日常の言語生活とつなげながら、「頑張りたい」「できるようになりたい」ことを見いだせるようにしている。 ●「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元には、「学習の見通し」を設けている。 ●「ふり返る」では、自らの学習を価値づける視点を投げ掛け、身につけた「言葉の力」を確かめて成長の実感へとつなげるとともに、学んだことを他教科等の学習や実生活に活用することを促す「生かそう」を設け、学習の有用感を高め、「もっと学びたい」という意欲を喚起するようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> 2.主体的・対話的で深い学び 	<ul style="list-style-type: none"> ●育成すべき資質・能力を具体化した「言葉の力」を学習の中核とし、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、編集上の多様な工夫がなされている。 ●学習の導入部で主体的・対話的で深い学びに向かう構えが作られるよう、「つかむ」段階の内容を充実させている。「言葉の力」を明示して身につけたい資質・能力を見通すとともに、既習事項や生活体験を想起したり基盤となる知識や技能をおさえたりすることで、児童が自らの課題を明確にし、主体的に学びに向かえるようにしている。 ●学習過程の適所に「言葉の力」に関わる「問い」を投げ掛け、児童が常に言葉による見方・考え方を働かせながら「問い」を追究し、学びを深めることができるようにしている。また、「問い」について思考を深める手立てとして、ノートやメモ、カードや図表などを用いた思考操作の例を随所に提示している。 ●友達との対話を通して学習を深める場面を随所に提示し、対話的な学びを促している。 ●各学年の最初に、「話すこと・聞くこと」の「対話」系統の小単元を設け、対話的な学びの基礎・基本となる力を身につけ、学年を通して活用できるようにしている。
<h3>3. 領域等の内容と特色</h3>	
<ul style="list-style-type: none"> ●話すこと・聞くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●以下の5系統の単元の学習を通じて、目的や条件に応じた「話すこと・聞くこと」の資質・能力が育成されるようにしている。 【対話】 …対話をするときの言葉や態度について考え、対話的な学びの基礎・基本の力を身につける。 【聞く】 …必要なことを聞き取り、考えたり質問したりして、主体的に聞く力を身につける。 【話し合う】 …目的を意識して計画的に話し合う力を身につける。

<ul style="list-style-type: none"> ●書くこと 	<ul style="list-style-type: none"> 【話す（感性）】 …感じたことが伝わるように、構成や音声表現の工夫を考えて話す力を身につける。 【話す（情報活用）】 …調べたことや考えたことが伝わるように、構成や音声表現、資料活用の工夫を考えて話す力を身につける。 ●以下の7系統の単元の学習を通じて、目的や相手、文章の種類に応じた「書くこと」の資質・能力が育成されるようにしている。 【情報の扱い方】 …コンパクトな「書くこと」の活動を通じて、「情報の扱い方」の基礎・基本の力を身につける。 【説明・報告】 …調べたり考えたりしたことを、形式や構成、資料の使い方を工夫して書く力を身につける。 【意見】 …自分の意見や考えを、説得力を持って書く力を身につける。 【創作（物語）】 …物語の創作を通じて、豊かに想像を広げて書く力を身につける。 【創作（詩・短歌・俳句）】 …詩・短歌・俳句の創作を通じて、言葉を吟味して書く力を身につける。 【手紙】 …手紙を書くことを通じて、目的や相手に応じて書く力を身につける。 【文集】 …1年間で書いた文章を読み返し、推敲する力や文章のよさを伝え合う力を身につける。 ●低学年においては、身近な生活での出来事や見たこと聞いたことについて書く「書くことの基礎」単元を設け、書くことに慣れ親しみ、基礎的な書く力を身につけるようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ●読むこと（文学） 	<ul style="list-style-type: none"> ●心に響き、児童の感性に訴える教材を通して想像力や豊かな心をはぐくむよう、以下の5系統の単元を設け、身につける資質・能力を明確にして系統的に配列している。 【音読】 …物語から読み取ったり考えたりしたことを、音読で表す力を身につける。 【読み取る】 …物語の構成や内容を読み取る力を身につける。 【読み深める】 …読み取ったことをもとに、想像を広げて解釈するために必要な力を身につける。 【感想や考えを持つ】 …物語を読んで理解したり想像したりしたことをもとに、感想や考えを持つ力を身につける。 【読み広げ・読み比べ】 …物語を読み広げたり、二つの物語を読み比べたりすることで、「言葉の力」を広げ、深める。
<ul style="list-style-type: none"> ●読むこと（説明文） ●読むこと（読書） 	<ul style="list-style-type: none"> ●発達の段階に応じた文章を多様な分野から選定し、以下の4系統の単元を設けて、幅広い資質・能力が育成されるよう系統的に配列している。 【読解の基礎】 …文章の内容や構成を正確に理解する力を身につける。 【読み比べ・表現の工夫】 …書き手の意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力を身につける。 【情報活用】 …目的や課題に応じて、情報に関係付けて活用する力を身につける。 【考えを広げ、深める】 …文章との対話を通して、ものの見方や考えを広げ、深める。 ●好きな本や読書体験の交流を通して、読書への親しみを深め、読書生活を豊かにする単元を、各学年に設けている。


●知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領の「知識及び技能」に示された事項に重点を置き、学習や実生活に生きて働く力として習得できるよう、以下の観点で単元や教材を設け、6学年を通して系統的に配列している。 <ul style="list-style-type: none"> 【言葉の特徴や使い方】 <ul style="list-style-type: none"> …漢字や語彙、表記、文法など、言葉や文字に関する指導事項を系統的・段階的に取り立て、繰り返し学習することによって確実に習得する。 【言葉の学びを振り返り深める】 <ul style="list-style-type: none"> …各学年の言葉の学びを振り返りながら、言葉の特徴や使い方に改めて目を向け、言葉の使い手としての自覚を高める。 【伝統的な言語文化】 <ul style="list-style-type: none"> …我が国の優れた伝承や古典に親しみ、日本語の美しさや豊かさに触れることで、受け継がれてきた言語文化を大切に、発展を願う態度を養う。 【図書館】 <ul style="list-style-type: none"> …各学年の段階に合わせた「図書館へ行こう」(1年は「としょかんはどんなところ」)を設け、実際に図書館を利用する経験を通じて、目的に応じた図書館の利用の基礎を学ぶ。 【読書】 <ul style="list-style-type: none"> …各学年の夏休み前に「本は友達」を設置。著名人による読書体験文と多様な図書を紹介する「〇年生の本だな」、読書記録で構成し、読書への関心を高め、読書習慣を養う。
---------	---

4. 教科書の構成上の配慮と工夫

●指導計画作成のために、どのような配慮をしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●児童や地域・学校の実態に応じた指導計画の作成に対応できるよう、内容や構成に適切な配慮がなされている。
1.内容の程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げている。 ●各学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数、分量であり、領域ごとのバランスも適切である。また、単元ごとに、内容に応じた適切な時数を配当している。
2.構成上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●2年以上の各巻の巻頭に、「国語の学習の進め方」「〇年で学習する言葉の力」を設け、年間を通じて「何を、どのように学ぶか」が見通せるようにしている。 ●4月を学習の基盤作りの期間として重視し、学習の基礎となる「対話」「情報の扱い方」「音読」「ノート作り」「図書館利用」についての単元・小単元を位置づけて、学んだことを年間の学習で活用できるようにしている。▶3年の例…「何をしているのかな」(「話す・聞く」対話系統, 上10), 「くらべてみよう」(「書く」情報の扱い方系統, 上12), 「すいせんのラップ」(「読む(文学)」音読系統, 上16), 「国語のノートの作り方」(上28), 「図書館へ行こう」(上30) ●各巻末の付録は、各単元の学習の補助や各巻を通じた学習のふり取り、学んだことの活用や発展に資する教材や資料をまとめ、多様な便宜に応えられるように編集されている。
3.カリキュラム・マネジメント、他教科関連	<ul style="list-style-type: none"> ●各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、他教科等との合科的・関連的な指導、家庭や地域との連携が図れる教材や題材を積極的に取り上げている。▶「この人をしょうかいします」(2下106), 「調べて書こう、わたしのレポート」(3上56), 「『ふるさとの食』を伝えよう」(4下54), 「日本語と外国語」(5年232), 「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」(6年138) など ●国語科で身につけた資質・能力が他教科等の学習に生かせるよう、各単元の「ふり返る」段階において、「言葉の力」の活用を促す「生かそう」を設けている。 ●基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る教材を中心に、短い時間を活用した指導など、柔軟な指導計画や時間割に対応できる教材が充実している。▶「漢字の練習」(1下118, 4上79, 6年165ほか), 「言葉の練習」(3上153, 5年163, 6年107ほか), 「ことばあつめ」(2上140, 4上141, 6年72ほか), 「季節の足音」(2上108, 3下72, 5年198ほか) など ●2学期制、3学期制のどちらの指導計画にも無理なく対応できるようにしている。 ●複式指導計画の作成に配慮して、1・2年、3・4年、5・6年それぞれに、同じ時期に同じ領域の学習が位置づくよう配列している。

4.道徳教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●児童どうしの協働や考えの共有など、対話的な学習活動を通じて、相互理解や自他の尊重を深める態度を養うようにしている。 ●自他の尊重や生命への畏敬、伝統や文化の尊重等に関わる教材や題材、学習活動を通じて、豊かな情操や道徳性を養うようにしている。
5.幼小中の接続	<ul style="list-style-type: none"> ●1年上巻を国語科の入門期とし、幼児期にはぐくまれた資質・能力を発揮しながらさらに伸ばしていけるよう、児童の関心や成長への願いに寄り添ったコンパクトな教材を中心に構成している。 ●1年第1教材は、リズムカルで呼びかけ合うような言葉と、児童の心情に寄り添ったイラストによって構成され、心と体を使って言葉や音を楽しんできた幼児期の経験を、言葉の学びとして受け止め、つなぐようにしている。▶1上巻頭 ●1年の4月は、全て見開き完結のシンプルな教材で構成されている。生活科を中心とした学校生活の中に無理なく位置づけられる題材や活動を取り上げ、各校のスタートカリキュラムに柔軟に対応できるようにしている。また、スタートカリキュラム対応期の教材として、以降の学習と異なるカラフルな紙面とし、児童が楽しく学べるようにしている。▶1上10～25 ●入門期においては、文字の習得度合いに応じて負担なく学習に取り組めるよう、スモールステップで文字や言葉の基礎を学ぶようにしている。また、児童の実態に即して、音声言語から文字言語へと、学びやすい配列を工夫している。 ●小学校で身につけた資質・能力が中学校でさらに育成されるよう、中学校の教育課程を踏まえて学習内容を系統化している。また、「小学校では何を、どこまで学んだか」を振り返ることができるよう、身につけた資質・能力を「言葉の力」として明確化している。
●今日的な課題に対しどのように取り組んでいるか。	<ul style="list-style-type: none"> ●児童や学校、社会を取り巻くさまざまな課題に対し、編集上及び造本・デザイン上、適切な配慮や工夫をするとともに、将来の社会を担う児童にふさわしい教材を厳選して取り上げている。
1.特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●文字の習得においてつまずきやすい特殊音節や助詞について、不要なつまずきを回避できるよう、特別支援教育の知見を生かした指導法を取り入れている。▶「ちいさいやゅよ」(1上78), 「はをつかおう」(1上48) など ●仮名文字の習得度合いに応じて活用できるよう、1年の上下巻の付録に全ての平仮名・片仮名を一覧できる表を掲載している。▶1上下各巻末折込 ●印刷は鮮明で、シンプルなレイアウト・配色であり、だいたいな情報に着目しやすく、学習に集中できる紙面である。 ●物語・説明文の本文には、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけたり指示したりしやすいようにしている。
2.全ての児童が使いやすい紙面への配慮(ユニバーサルデザイン)	<ul style="list-style-type: none"> ●色覚の多様性に配慮し、専門家の協力のもと全ページにわたって色彩デザインを検討し、色だけで区別・判別する表現を避けるとともに、必要に応じて色以外の情報を加え、全ての児童が見やすい紙面を実現している。 ●本文は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現を用いている。表記や用語は適切に統一されている。 ●本文には、手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠した、見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発し、使用している。また、ローマ字などに用いるアルファベットには、特別支援教育の専門家の助言のもと、英語教科書用に新たに開発したユニバーサルデザイン書体を用いている。 ●長期の使用や通学時の持ち運びに耐えるよう、軽量かつ強度に優れた用紙を開発し、使用している。表紙には耐久性に優れた加工が施され、製本には特に堅牢な針金綴じが用いられている。 ●弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行する。 ●環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用している。
3.学力の向上への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●全国学力・学習状況調査をはじめとした各種の学力調査の分析を踏まえ、児童のつまずきのポイントの確かな習得を図る教材、現代社会をたくましく生きるために必要とされる資質・能力の育成を図る単元を系統的に取り上げている。

4. デジタル化への対応

-  のマークを付した箇所では、ウェブサイト上で学習に役立つデジタルコンテンツを利用できる。
- 教科書と同じ内容の学習者用デジタル教科書を発行する。

5. 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を、どのように学ぶかを明確にし、学習過程における児童の活動や思考の流れを具体的に記述して、指導計画が立てやすく、無理なく指導できるようにしている。
- 教師用指導書、指導者用デジタル教科書、ウェブサイト等、指導を支援する体制が充実している。

6. 人権上の配慮

- 話例や文例、写真やイラストなどに登場する人物について、性別による偏りがないようにしている。また、身体的な特徴の過度な強調を避けるよう配慮されている。

7. 現代的な教育課題への対応

【生命の尊重に関する教育】

- 未来を担う児童に考えさせたい内容やテーマを備えた教材や題材を厳選して取り上げ、児童が将来にわたってさまざまな課題に向き合い、他者と協働しながら解決に参画するための資質・能力をはぐくむようにしている。

【防災・安全に関する教育】

- 生命の営みや命あるものの存在の意義、生命の尊厳や生きることの価値について考える。▶「子どもをまもる動物たち」(1下101)、「ぼくがここに」(3下巻頭)、「サボテンの花/生きる」(6年16)、「海のいのち」(6年112) など

【環境に関する教育】

- 防災について、資料を活用して考えたことを表現し、身近な人に呼びかける。▶「防災ポスターを作ろう」(6年52)

【伝統や文化に関する教育】

- 自然への豊かな感性をはぐくんだり、環境保全の大切さについて考えたりする。▶「なにに見えるかな」(1下30)、「自然のかくし絵」(3上38)、「環境問題について報告しよう」(5年50)、「イースター島にはなぜ森林がないのか」(6年34) など

【国際理解・国際協力に関する教育】

- 我が国や郷土の伝統や文化に触れ、親しむとともに、その継承や発展について考える。▶「むかしばなしをたのしもう」(1下88)、「『ふるさとのお』を伝えよう」(4下54)、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」(5年142)、「日本の伝統芸能」(6年270) など

【平和と共生に関する教育】

- 外国の生活や文化への理解を深めたり、国際社会における課題について考えたりする。▶「外国の小学校について聞こう」(2上50)、「人をつつむ形ー世界の家めぐり」(3下88)、「外国のことをしょうかいしよう」(3下102)、「世界に目を向けて意見文を書こう」(6年158) など

【情報化社会に関する教育】

- 戦争がもたらす災禍や、平和の尊さ、平和と共生を求める国際社会の取り組みについて考えを深める。▶「パラリンピックが目指すもの」(3下8)、「一つの花」(4上124)、「世界ー美しいぼくの村」(4下110)、「ヒロシマのうた」(6年166)、「いわたくんちのおばあちゃん」(6年256) など

【科学技術の発展に関する教育】

- 目的や課題に応じた情報活用力、情報の送り手・受け手としての技能や態度など、情報化社会に生きるうえで必要な資質・能力をはぐくむ。▶「外国のことをしょうかいしよう」(3下102)、「広告を読みくらべよう」(4上84)、「友達の意見を聞いて考えよう」(6年48)、「インターネットの投稿を読みくらべよう」(6年74) など

【主権者に関する教育】

- 科学技術の発展に関する多様な考えに触れ、自分の考えを深める。▶「『弱いロボット』だからできること」(5年214)

【食や健康に関する教育】

- 生活における課題を見だし、その解決に主体的に参画する。主体的・合理的な考えの形成や判断、他者との考えの共有や合意形成に取り組む。▶「学校についてしょうかいすることを考えよう」(4上114)、「反対の立場を考えて意見文を書こう」(5年186)、「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」(6年138) など

【消費者に関する教育】

- 健康の保持・増進に果たす朝食の役割、我が国や郷土の食文化について理解を深める。▶「『ほげんだより』を読みくらべよう」(3上90)、「『ふるさとのお』を伝えよう」(4下54)、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」(5年142) など

【法に関する教育・知的財産に関する教育】

- 消費生活に関わる問題について、消費者の立場から考えを深める。▶「資料を見て考えたことを話そう」(5年226)、「世界に目を向けて意見文を書こう」(6年156) など

【オリンピック・パラリンピックに関する教育】

- 図書館や図書館の本などの公共物を、決まりを守って利用する。著作物の利用に関する法や決まりを知り、適切に利用する。▶「図書館へ行こう」(3上30ほか)、「情報を活用するとき気をつけよう」(6年156) など

- オリンピック・パラリンピックの理念やその意義について理解を深める。▶「パラリンピックが目指すもの」(3下8)、「新聞記事を読みくらべよう」(5年78) など